

⑫ 公開特許公報(A)

昭63-228258

⑪ Int.Cl.

G 06 F 15/00

識別記号

1 0 2

庁内整理番号

7361-5B

⑬ 公開 昭和63年(1988)9月22日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 対話処理システムにおけるログオン方式

⑮ 特 願 昭62-63117

⑯ 出 願 昭62(1987)3月17日

⑰ 発 明 者 竹 内 秀 幸 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内
⑱ 出 願 人 日本電気株式会社 東京都港区芝5丁目33番1号
⑲ 代 理 人 弁理士 内 原 晋

明 細 書

発 明 の 名 称

対話処理システムにおけるログオン方式

特 許 請 求 の 範 囲

対話処理システムにおいてセンタ装置と端末との間に論理的通信路を設定するログオン方式において、

利用者名、自動ログオン指定、使用端末名およびメニュー名を含む利用者情報をあらかじめ制御ファイルに登録しておくための登録手段と、

任意の端末から入力された入力データを解析する解析手段と、

該解析の結果で得られた情報により前記制御ファイルから利用者情報を読み出す制御ファイル読み出し手段と、

該読み出した利用者情報内に自動ログオンの指定があるときには前記論理的通信路を設定するログオン手段と、

利用者があらかじめ前記制御ファイルに登録しておいたメニュー名をもとにしてメニューファイルからメニューを読み出すメニューファイル読み出し手段と、

該読み出されたメニューを前記端末のディスプレイに出力するメニュー出力手段、

とを有し、利用者は端末の電源押下後、前記解析手段、制御ファイル読み出し手段、ログオン手段、メニューファイル読み出し手段および前記メニュー出力手段から成るプログラムを呼び出す操作を行うだけで前記論理的通信路が自動的に設定可能になるようにしたことを特徴とする対話処理システムにおけるログオン方式。

発 明 の 詳 細 な 説 明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、対話処理システムにおいてセンタ装置と端末との間に論理的通信路を設定するログオン方式に関する。

〔従来の技術〕

従来の対話処理システムにおけるログオン方式では、対話処理システム利用者は端末の電源を入れた後、対話処理システム呼び出し操作を行い、対話処理システムが端末ディスプレイに出力したログオン操作画面より対話処理システム利用者の情報を入力して、対話処理システムとの間に論理的通信路を設定している。

〔発明が解決しようとする問題点〕

上述した従来方式においては、常に、利用者が端末操作を通じてログオンを行うため、手間がかりすぎるという問題点がある。

本発明の目的は、あらかじめ指定しておくことによりログオンを自動的に行えるようにする方法を提供することにある。

〔問題点を解決するための手段〕

本発明の方式は、対話処理システムにおいてセンタ装置と端末との間に論理的通信路を設定するログオン方式において、

利用者名、自動ログオン指定、使用端末名およびメニュー名を含む利用者情報をあらかじめ制御

ファイルに登録しておくための登録手段と、

任意の端末から入力された入力データを解析する解析手段と、

解析の結果で得られた情報により制御ファイルから利用者情報を読み出す制御ファイル読み出し手段と、

読み出した利用者情報内に自動ログオンの指定があるときには論理的通信路を設定するログオン手段と、

利用者があらかじめ制御ファイルに登録しておいたメニュー名をもとにしてメニューファイルからメニューを読み出すメニューファイル読み出し手段と、

読み出されたメニューを端末のディスプレイに出力するメニュー出力手段

とを有し、利用者は端末の電源押下後、解析手段、制御ファイル読み出し手段、ログオン手段、メニューファイル読み出し手段およびメニュー出力手段から成るプログラムを呼び出す操作を行うだけで論理的通信路が自動的に設定可能になるよ

うにしたことを特徴とする。

〔実施例〕

次に本発明について図面を参照して説明する。

第1図は本発明の構成を表わす図である。

本実施例は、端末1と、入力データ解析制御部(以下解析部と記す)3、対話処理システム制御ファイル読み出し制御部(制御ファイル読み出し部)4、対話処理システムログオン制御部(ログオン部)5、対話処理システムメニューファイル読み出し制御部(メニューファイル読み出し部)6および対話処理システムメニュー出力制御部(メニュー出力部)7から成る対話処理システム管理プログラム(管理プログラム)2と、対話処理システム制御ファイル(制御ファイル)8と、対話処理システムメニューファイル(メニューファイル)9と、対話処理システム制御ファイル登録手段(登録手段)10とから構成される。

第2図は制御ファイル8の構成図である。12は対話処理システム利用者端末情報格納テーブル(以下利用者端末情報テーブルと記す)、13～

17は利用者端末情報テーブル12に格納される個々の情報であり、13は対話処理システムの利用者名、14は利用者のパスワード、15は自動ログオンスイッチ、16は自動ログオン使用時の使用端末名、17はログオン直後に端末ディスプレイに表示するメニュー名である。

次に、このように構成された本実施例の動作について図面を参照して説明する。

対話処理システムの利用者は、本対話処理システムを使用する前に、管理プログラム2を利用するための環境を登録手段10により制御ファイル8に登録しておく。

このとき登録する情報は、第2図で示されている、利用者名13、パスワード14、自動ログオンスイッチ15、使用端末名16およびメニュー名17である。

自動ログオン方式を利用したい利用者は、利用者情報を登録する際に、自動ログオンスイッチを自動ログオン使用状態にしておく。

制御ファイル8に登録後、利用者は制御ファイ

ル8にあらかじめ登録しておいた使用端末名16で指定された端末1の電源を入れる。これにより端末1のオペレーティングシステムが起動され、“K B Δ R E A D Y”が表示されて、端末1が対話処理システム利用可能状態になったら、利用者は、対話処理システムを呼び出すためのデータを端末1より入力して、そのデータを管理プログラム2に送信する。

管理プログラム2は、端末1より送信されてきたデータを解析部3に渡す。解析部3は、端末1の端末名を制御ファイル読み出し部4を渡す。

制御ファイル読み出し部4を渡された端末名をキーにして該当する使用端末名16対応の利用者13、パスワード14、自動ログオンスイッチ15およびメニュー名17を制御ファイル8から読み、これらをログオン部5に渡す。

ログオン部5は、自動ログオンスイッチ15がオンでないときには、ログオン用の画面を端末1に送り、以下、従来のように、利用者によるログオン操作に移る。自動ログオンスイッチ15がオ

ンであるときには、ログオン部5は制御ファイル読み出し部4より渡された利用者名13とパスワード14を基にして利用者のチェックをしたうえで対話処理システムのログオン操作を行う。

ログオン操作完了後、制御ファイル読み出し部4より渡されたメニュー名17をメニューファイル読み出し部6に渡す。

メニューファイル読み出し部6は、渡されたメニュー名17を基にしてメニューファイル9から指定されたメニューを読み出し、メニュー出力部7に渡す。メニュー出力部7は、そのメニューを端末1に出力する。

これにより、対話処理システムの利用者は端末1の電源を入れ、管理プログラム2を呼び出せば、従来のように、対話処理システムのログオン操作を行わずに、端末1に対話処理システムのメニューを自動的に得ることができ対話処理システムが利用できることになる。

〔発明の効果〕

以上説明したように本発明は、対話処理システ

ムを使用する前に対話処理システム制御ファイルに使用する端末名、利用者名、パスワード、自動ログオンの表示および最初に表示するメニュー名を定義しておき、端末から対話処理システムを呼び出すコマンドが送信されてきたら、対話処理システム制御ファイルに登録してある、利用者名とパスワードによって自動的にログオン操作を行う構成を採用したため、対話処理システム利用者は対話処理システムに対してログオン操作を行わなくとも対話処理システムを利用できるようになるという効果がある。

図面の簡単な説明

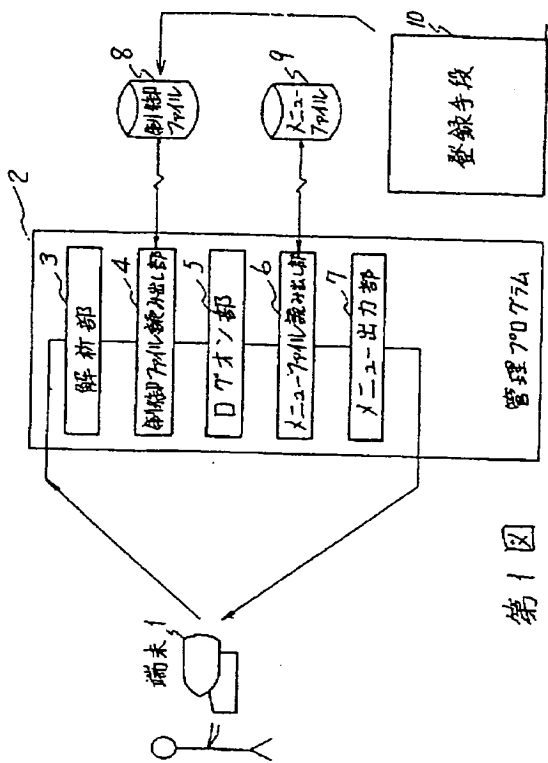
第1図は本発明の一実施例を示し、第2図は対話処理システム制御ファイルの構成を示している。

1…端末、2…対話処理管理プログラム（管理プログラム）、3…入力データ解析制御部（解析部）、4…対話処理システム制御ファイル読み出し制御部（制御ファイル読み出し部）、5…対話処理システムログオン制御部（ログオン部）、6

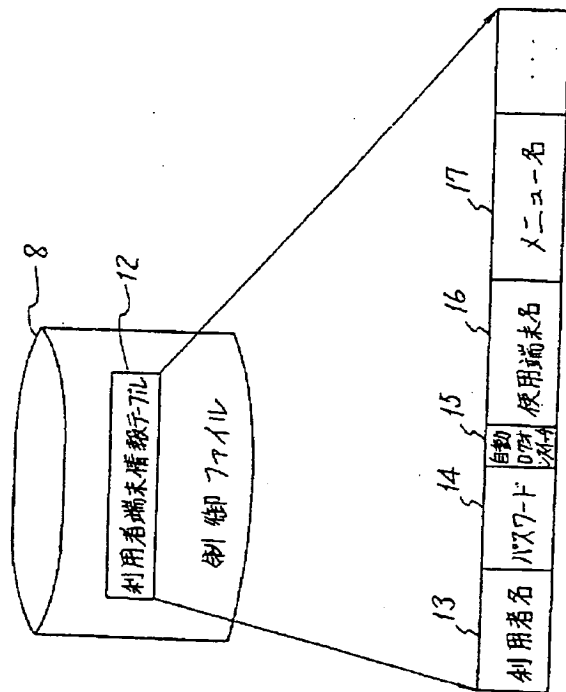
…対話処理システムメニューファイル読み出し制御部（メニューファイル読み出し部）、7…対話処理システムメニュー出力制御部（メニュー出力部）、8…対話処理システム制御ファイル（制御ファイル）、9…対話処理システムメニューファイル（メニューファイル）、10…対話処理システム制御ファイル登録手段（登録手段）、12…対話処理システム利用者端末情報格納テーブル（利用者端末情報テーブル）、13…利用者名、14…パスワード、15…自動ログオンスイッチ、16…使用端末名、17…メニュー名。

代理人 弁理士 内 原

弁理士
内原



第1図



第2図